

内蒙古胡列也吐のツル類およびその保護について

李曉民

東北林業大学野生動物資源学院

訳 福井和二

摘要；胡列也吐は内蒙古自治区呼倫貝爾盟陳巴尔虎旗域内の49° 48' N, 118° 27' Eに位置し、総面積40km²。1998年筆者は本区のツル類に関して1年間の調査を行なった。本区には5種類の敦賀生息し、今回そのうち4種類78羽を記録し、種別ではナベツル52羽、タンチョウ11羽、マナツル4羽、アネハツル11羽であった。このほか本区にはクロツルが生息しているが、今回の調査では見ることができなかった。この他、今回の調査で、我が国の夏季のナベツルの生息群としては最大の記録となった。

胡列也吐は内蒙古自治区呼倫貝爾盟陳巴尔虎旗¹にあり、海拉尔市西北120km、ロシアとの国境に接した辺境の地にある。この地区は平坦で、広大な草原が広がり、また大面積の浅い湿地と湖沼が点在している。土壌は典型的な草原褐色石灰土²である。この草原の主な植生は針茅 (*Stipa capillata*)³、羊草 (*Aneurolepidum chinense*)⁴、隠子草類 (*Cleistogenes spp*) などで、湿地ではヨシ、オギ、フトイ、サンカクイ、ガマ類、スゲ類などを主としている。

胡列也吐には5つの比較的大きい沼が西から東へ一列に並んでいる。この地域は中口国境に接した僻地で、人による攪乱が少なく、したがって汚染がまったく認められない。水豊かにして草肥え、食物は豊富、広大なヨシの草原湿地、鳥類、ことに水鳥にとって絶好の採食場所と隠れ場所を提供している。毎年大群の水鳥がこの地に飛来して生息し、繁殖を行なう彼らにとって、大きな楽園を成している。調査によると、この地域の鳥類は18目38科97属191種である。その内、水鳥が89種で、全体の46.6%を占め、非スズメ目の鳥類が71.2%である。毎年のガンカモ類の繁殖のみをみても1.5万羽である。また本地区はツル類にとって最も適した生息地である。本区におけるツル類に対する調査研究は充分とは言えず、また、今まで本区の鳥類に関する報告も見られていない。

1. ツル類の現状

筆者は1998年1月、4月、6月、9月の各月にツル類について観察を行なった。観察されたツル類は4種、78羽で、クロツルは本地区では希少種で今回の観察では見ることができなかった。

1.1 ナベツル (*Grus monacha*) ナベツルは胡列也吐では夏鳥である。6月23日午後4時、吐列也吐北東7kmの草原で47羽のナベツルを発見した。3群に別れ、悠然と草原上で採食していた。3群は4羽、19羽と24羽に別れ、各群の間は2km以上離れていた。大きな群はさらに幾つかの群に別れており、19羽の群は3羽、8羽、7羽、1羽に分かれていた。その小群間の距離は200~1000mで各個体間の距離は5~100mであった。筆者はジープに乗って50m近くまで接近することができたが、その圧力で群れは北へ2kmほど移動し、3群は合体し1群となり、個体間の距離も縮小した。さらにジープで1kmまで接近した時、北へ向かって飛び去った。帰途について我々は途中の沼地の中に5羽のナベツルを発見したが、彼らも北へ向かって飛び去った。6月23日のナベツルの観察総数は53羽であった。ナベツルは胡列也吐以外で、黒竜江省通北林業局内に5~7羽の群れと、繁殖巣1個が発見されている。その他の地域では旅鳥か冬鳥である。現在我が国で確認されている最大のナベツルの群は胡列也吐に生息する群である。6月25~30日に24羽、22羽、11羽のナベツルが観察されている。筆者は未だ雛を見ていないが、

5～8羽の幼鳥を観察している。このナベツルの群が、当地で繁殖しているかどうかは不明である。筆者が9月に再びこの地で調査をしたときは、すでにナベツルは去っており、牧民の話によると、8月末(27日)の正午頃、上空を何回も巡回した後、南東方向へ飛び去ったとのことであった。

1.2 タンチョウ(*Grus japonensis*) タンチョウは胡列也吐では夏鳥で、毎年繁殖している個体がいる。1998年の調査では11羽が記録された。4月21日午前胡列也吐の三泡子⁴北岸に渡ってきたばかりの4羽の成鳥が、沼の浅い所で採食しているのを発見した。22日早朝、再び観察に出かけたが、見る事ができなかった。

6月24日三泡子北岸で2羽(成鳥と幼鳥)のタンチョウを発見し、以後毎日水草のまばらな、水深5～20cmの浅い湿地で採食をしていた。採食時には5:00と16:00の二つの時間帯にピークがあった。タンチョウは4時頃当地へ飛来し、5時頃に最も採食行動が活発となり、6時頃には行動が鈍くなる。7時頃には採食が終わり、ゆっくりと当りを歩き回る。9時頃になると再び採食をはじめが、行動は緩慢で、採食頻度も少なかった。11時頃になると休息に入り、嘴を翼の下に入れ、片足で立って静かに眠る。何事もなければ13時頃まで休息は続く。その後、ゆっくりと歩き回り、採食する。16時頃再び旺盛な採食行動のピークがあり、17時頃には採食が終わり。19時頃、彼らは採食地を離れてねぐらへ帰っていく。この2羽は7月の雨期の後まで、この採食地を利用していた。

9月の渡りの始まる時期に2群5羽、成鳥1と成鳥2、幼鳥2のタンチョウを観察した。

1.3 マナヅル(*Grus vipio*) 本区でのマナヅルの繁殖は見られていない。ただ秋季の渡りの時期に四泡子の東岸で4羽の一群が水深の浅い所で採食しているのを観察した。4羽はすべて成鳥であった。筆者はジープで1kmまで接近したところ、彼らは東岸から西岸へと移動した。この群は3日間ここに滞在した。

1.4 クロヅル(*Grus grus*) クロヅルは本区に分布するが非常に数が少ない。牧民からの聞き取りによると、毎年春の渡りの時期に5～10羽を見かけるが最近1～2年は見ていないとのことであった。筆者のこれまでの観察でも見る事がなかった。

1.5 アネハヅル(*Anthropoides virgo*) アネハヅルは呼倫貝爾盟で最も多く見られるツル類である。群れも多く、広域に分布している。筆者はかつて1987年8月新巴尔虎左旗⁵新宝力格東蘇木⁶で1100～1150羽のアネハヅルの群を観察しており、これは夏季における我が国最大のアネハヅルの群れである。しかし、胡列也吐では、その個体数は少なく、4月の渡りの季節に2群11羽(4羽と7羽)を観察したのみである。牧民によると9月11日、五泡子東側で80羽以上のアネハヅルが飛んで行くのを見たという。

2. 胡列也吐ツル類生息地の保護

胡列也吐地域は中口国境の辺境にあり、炊煙も希で、いかなる汚染もなく、また、水のきれいな浅い湿地があり、食物も充分で、ツル類にとって絶好の生息環境を提供している。毎年きまっと多くのツル類がこの地で繁殖を行ない、ナベツルについては、その数50余羽、わあが国の夏の生息個体群としては最大のものである(他に黒竜江省通北林業局で発見された5～7羽の群れがあるのみ)。

本地域は《ラムサール条約》によれる国際的に重要な湿地の規準に該当し、国際的に重要なツル類の生息地である。しかも人による攪乱が極めて少ない、しかし、ツル類の生息に対する影響がまったく無いわけではない。主な問題は漁労と卵の拾得である。胡列也吐での漁獲量は毎年数十万kgに達している。これらはツル類の繁殖に必ず影響があると考えられるが、最も影響が大き

いのは、春になると当地の住民が水鳥の卵を拾得して歩くことで、もちろんこの中にツル類の卵も含まれている。

本地域の生物環境および生物多様性を維持するために自然保護区を設立し、有効な保護施策を制定し、管理体制を強化することにより、本地域の自然資源や特にツル類その他水鳥の希少種を完全に保護し、ツル類に安全で、安らかに、しかも安定した生息環境を提供しなければならない。

訳注

- *1 旗は内蒙古自治区の行政単位で、中国の県、日本における群に相当する。盟はその上級行政単位で、広い内蒙古自治区独特の行政単位であり、また、旗と共に清朝勃興期の軍制が起源と言われる。
- *2 褐色石灰土、栗钙土^{ツェグイット}と書き、中国北西部、および内蒙古自治区の草原に多い。
- *3 針茅、イネ科、ハネガヤ属、中国内蒙古、東北地方に分布。
- *4 羊草、東北地方から西へ新疆省まで蒙古、シベリアと広く分布。放牧家畜の良好な牧草となっている。
- *5 泡(バオ)とは泡のことであるが、小さい湖、沼、池、水溜まりなども泡と言う。ここでは沼の名勝。
- *6 新巴尔虎左旗は呼倫湖の東に一带の地域で、新宝力格東は輝河の中流域に広がる湿地帯である。